

学校共催 ウォークラリー

〈令和6年6月1日(土)〉

【目的】

学校では体験することが難しい学習プログラムを企画・提案し、児童・生徒に多様な学習機会を提供するとともに、野外活動センターの新規体験プログラムの開発を目的として実施する。

【共催】

広島市立荒神町小学校 5・6年生 44人

【プログラム内容】

9:15 競技説明 9:25 ウォークラリー 11:00 ふりかえり

「競技説明」



ウォークラリーのルールやグループで大切にしてほしいことを確認しました。スタートの掛け声は、班ごとに決めました。

「ウォークラリー」



コマ地図を見ながら、ルートを選択しました。チェックポイントの問題を解きながら、ゴールを目指しました。チェックポイントは、センターが準備した問題と学校独自の問題を組み合わせました。

「ふりかえり」



チェックポイントの答えを確認するとともに、どうやって意思決定をしたのか、競技中に子どもたちでどんなやりとりがあったのかを全体で共有しました。

子どもたちの様子

- ▷チェックポイントを通過する際に、班のメンバーで意見交換をしたり、自分たちの意見をすり合わせて意思決定をしたりしました。自分たちの班だけでは分からない問題については、他の班と意見交換をする姿が見られました。競争よりも協力する姿が見られたことは予想外でした。
- ▷「100gを当てる」問題については、ドッグフードや砂糖、ソフトボールやバスケットボールなど子どもたちが自分に身近なものを基準として考えていました。自分たちの生活経験を問題に当てはめて検討し、課題の解決を目指す姿が見られました。
- ▷ゴールの際に時間得点60分の時間を考え、すぐにゴールしないで考える班、笑顔いっぱいでお手をつないでゴールする班、みんなの「やっほー」という大きな声がゴールまで響く班など、それぞれの班の良さを見ることができました。